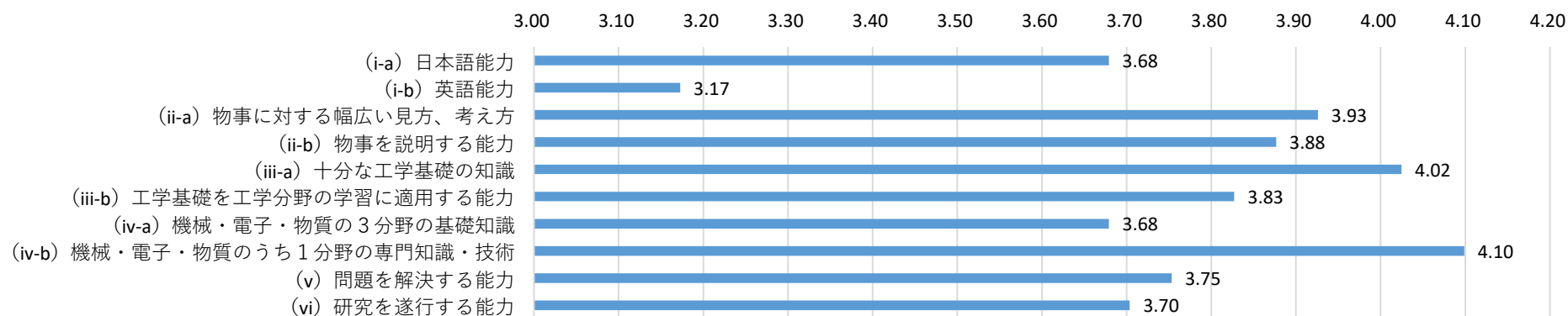


平成30年度 学部4年生対象 卒業時における学修成果に係る自己評価アンケート 集計結果

回答率99%(回答者数81名/卒業者数82名)

質問項目 (ディプロマ・ポリシーに定める能力・知識の修得)	身についた (5点)	まあ 身についた (4点)	どちらとも 言えない (3点)	あまり 身につか なかった (2点)	身につか なかった (1点)	回答数	平均
(i-a)日本語能力	8	50	16	3	4	81	3.68
(i-b)英語能力	8	25	27	15	6	81	3.17
(ii-a)物事に対する幅広い見方、考え方	17	48	12	1	3	81	3.93
(ii-b)物事を説明する能力	10	56	12	1	2	81	3.88
(iii-a)十分な工学基礎の知識	14	57	8	2	0	81	4.02
(iii-b)工学基礎を工学分野の学習に適用する能力	11	49	17	4	0	81	3.83
(iv-a)機械・電子・物質の3分野の基礎知識	9	45	21	4	2	81	3.68
(iv-b)機械・電子・物質のうち1分野の専門知識・技術	21	48	11	1	0	81	4.10
(v)問題を解決する能力	11	46	19	3	2	81	3.75
(vi)研究を遂行する能力	10	45	20	4	2	81	3.70

平成30年度 学部4年生対象
卒業時における学修成果に係る自己評価アンケート



【結果分析】

- ・ほとんどの項目で3.7前後の数値以上を示しており、学生が達成度を評価している。
- ・工学基礎・専門科目の知識に対する評価が特に高く(4.0以上)、学修成果が高いと言える。
- ・英語能力に対する評価が低い。TOEICスコアという具体的な数値により客観的評価ができることが原因の一つと考えられるが、スコア平均値そのものは入学時(467点)→卒業時(574点)へと100点超の向上が見られる。